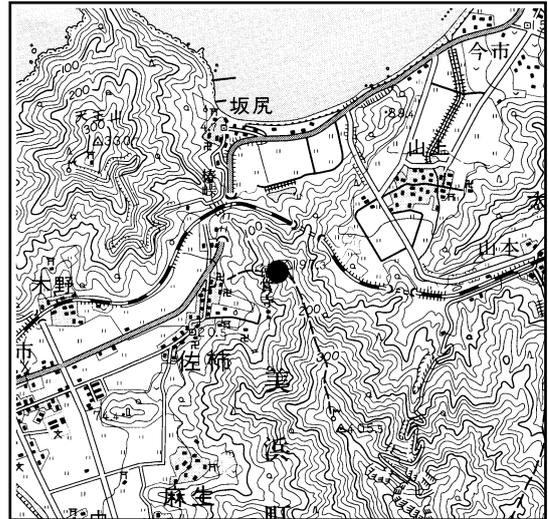


## 23. 国吉城址関連遺跡

### (国吉城址・栗屋勝久居館跡)

所在地：三方郡美浜町佐柿地係  
調査原因：国吉城址史跡公園整備事業  
調査期間：平成 23 年 7 月 1 日～12 月 25 日  
調査主体：美浜町教育委員会  
調査面積：150 m<sup>2</sup>  
時代：中世末～江戸時代初期



位置図(S=1/50,000)

**調査の概要** 美浜町では、国吉城址とその周辺遺跡群を含む、佐柿区の歴史的景観の保存整備を図り、史跡公園として活用するため、平成 12 年度より確認調査を実施しています。今年度は、昨年度に引き続いて山城部本丸跡周辺の遺構確認調査を行いました。

**遺構** 昨年度調査では、本丸北西帯曲輪と連郭曲輪群Ⅱ郭を分断する堀切の状況把握のため、堀切の断ち割り調査を行った結果、堀切の両斜面から石垣遺構が検出され、箱型の堀底からは、堀切を渡る橋の橋脚礎石とみられる平石が 2 基確認されました。

今年度は、同じ本丸北西帯曲輪の南西隅部付近の遺構確認調査を行いました。昨年度調査では、南面石垣の一部を確認していましたが、隅部付近は大量の土砂が覆い、崩落石層の検出までに留まりました。この崩落石層を掘削したところ、堀切石垣から続くとみられる西面石垣を確認しました。隅部付近では、隅石が完全に失われていましたが、東方向に伸張する南面石列を検出し、この石列は昨年度確認した南面石垣に続くことが判明しました。出土した西面石垣は、人頭大の石材が用いられ、積み石や裏込石の状況は、堀切石垣と同様の特徴がみられます。上層段は崩れ、下段 2～3 段程度が残っていました。また、検出した南面石垣の東西軸と、その下段で遊歩道際に現存していた南面石垣の東西軸は、位置や方向がややずれることから、検出した石垣は下段石垣と一体になるものではなく、犬走りを伴う二段石垣だった可能性が考えられます。

また、当帯曲輪の西下にある曲輪のプラン確認の精査をしたところ、中央部に湿気を伴う円形集石プランの窪みを確認しました。水ノ手の可能性が考えられます。

**遺物** 土師質土器のほか、播鉢やカメなどの国産陶器片、白磁片などが出土しました。

**まとめ** 昨年度と今年度の調査で、本丸北西帯曲輪は南北両隅部で石垣遺構が確認され、総石垣であった可能性が高くなりました。縄張りのにも、二ノ丸・連郭曲輪群などの諸曲輪から本丸に至る前段に位置する重要な曲輪であり、嚴重構造であったとみられます。

次年度調査では、帯曲輪西面に数箇所試掘トレンチを設定して曲輪ライン（石垣、入出隅部の有無）を確認すると共に、西下曲輪の平面精査と窪みの調査を行いたいと思います。

(大野康弘)



本丸北西帯曲輪西南隅部(今次調査前)



同 西南隅部石垣検出状況



同 西面石垣検出状況



同 西南隅部及び南面石垣列検出状況



同 南面石垣(東部)検出状況